

7

地域安全マップ

地域安全マップとは、犯罪が起こりやすい危険な場所や安全な場所を示した地図です。危険な場所とは、だれもが「入りやすく」、だれからも「見えにくい」場所です。また落書きがある、ゴミが散乱しているなど、人の管理が行き届いていない場所も心理的に「入りやすく見えにくい」場所です。このマップづくりは、「どこに不審者が出没した」「どこで事件が発生した」といったような、「人」や「事件」に注目するものではありません。あくまでも「場所」に注目することが大切だとしています。

地域安全マップづくりは、子どもだけではなく、地域への啓発や環境改善にも活用できる有効な取り組みのひとつです。

地域安全マップづくりの目的

地域安全マップづくりの目的は、「地域の環境を改めて

知る」ことだけではなく、「子どもの持つ危機回避能力を高める」ことにあります。マップ作りを通し、子どもたちには、どのような場所に注意をすればよいか、自身で判断できる力をつけさせることが大切です。このためには、子どもたちがマップ作りに参加する必要があります。

安全マップづくりの効果

●地域への関心が高まる

自分たちの生活している地域を普段とは違った視点で見ることで、さまざまなことを発見でき、地域への関心が高まります。

●地域住民ボランティアとの交流

地域のボランティアと子どもたちが一緒にマップづくりを行うことで、お互いの顔を知る機会になります。

●地域の意識の向上

子どもたちによる地域安全マップづくりには、子どもの力で大人の意識を変え、そこから改善のアクションを起こさせることが期待できます。例えば、街灯がなく夜間暗い場所や、ゴミや落書きが放置され人の関心がない場所などのマップ情報を共有し、地域や行政の力でその場所を改善することで、安全なまちづくりにつながります。

- 規準表 <21b> 防犯のポイントについて、地域住民や子どもたちに説明することができる。
- <23b> 建物の種類や特性に応じた対策を理解し説明できる。
- <41b> 防犯パトロールを企画・立案し、防犯の実践に取り組むことができる。
- <42a> 子どもが自分自身で身を守るための方法を指導できる。
- ②防犯を目的とした様々なマップの用途や効用を説明できる。(地域安全マップと犯罪発生マップの違いについてなど)
 - ①子どもの目線に立って、建物とその周辺の危険な場所が判断できる。
 - ④「安全マップ」などを活用した活動を企画・実行することができる。
 - ⑤「安全マップ」などについて説明し、その作成方法を指導できる。



地域安全マップ作成の流れ (参考例)

手順 1. 準備

- ・「学校までの地図 (通学路の地図)」「学校の周りの地図 (学区域の地図)」「商店街の地図」など、どの地域のマップを作成するかを決める。
- ・参加人数が多いときはグループごとに分かれ、それぞれが担当する場所を決める。

【準備しておこう】

- ・書き込み、写真を貼ることができるよう大きめの地図や模造紙 (市販の地図のコピーを使用する場合は、地図の製作会社の許諾が必要)
- ・マジック、ペンなどの筆記用具・デジタルカメラ・メモ帳



▲大人も安全マップで地域の確認を

手順 2. 地域調査

- ・実際に歩いてみる。
- ・日常であまり意識してない場所、モノにも注目してみる。
- ・気になるところはメモをとる、カメラで撮影するなどして、あとで「なぜ気になったのか」を考えてみる。
- ・お店の人や警察官、散歩している人など、地域のいろいろな人の話を聞き、その話も参考にする。

手順 3. まとめる

- ・下書きの地図やメモを見て、そのときの様子を思い出しながら、地図にまとめ完成させる。
- ・「集めた情報をどのように表現したらマップを見る人にわかりやすいか、あとで使いやすいか」を考えてマップを作成する。
- ・絵や記号、色などを使うとわかりやすくなる。

マップに載せる情報の例

- 【事件や事故の起きそうなところ・「ヒヤリ」「ハット」としたところ】
- ・過去に事件や事故が起きた場所と似ているところ。
 - ・入りやすい場所、見えにくい場所。
 - ・高く長い塀が続く道・路上駐車が多い道など。

- 【時期・時間帯で変化するところ】
- ・昼間は明るい、夜になると街灯が少なく暗い道。
 - ・雑草や木が生い茂って見通しの悪い公園。
 - ・若者がたむろする場所 など。

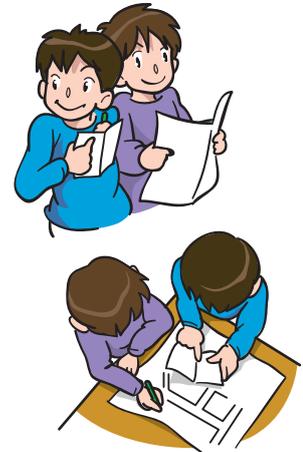
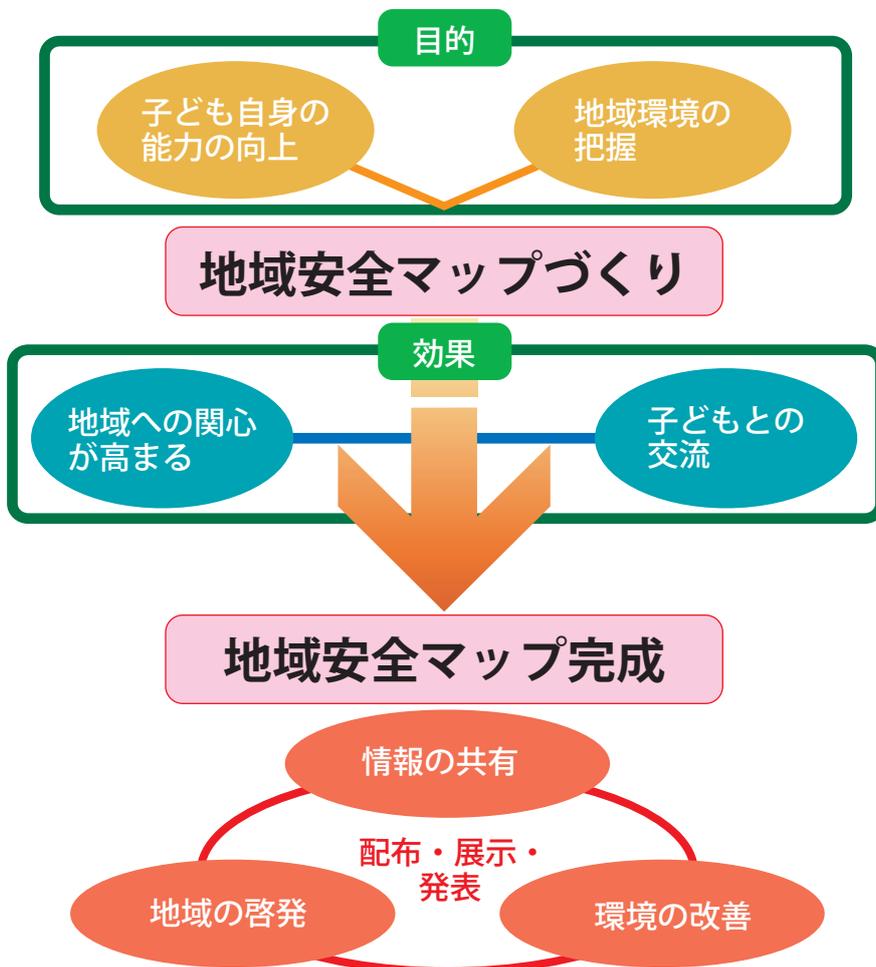
- 【管理が行き届いていないところ】
- ・落書きやゴミが散乱しているところ
 - ・整理されていない駐輪場
 - ・ボロボロになった空き家 など。

- 【助けを求めることができるところ】
- ・警察署、交番
 - ・子ども110番の家
 - ・学校・塾
 - ・信用できるお店（コンビニエンスストア、銀行、ガソリンスタンド、病院）など。

- 【よく行くところ・目印になるもの】
- ・よく行く場所（学校、公園、図書館、児童館、お店など）
 - ・目印になる場所（川や池、記念碑、大型店、観光名所など）

ポイント：大人「目線」と子どもの「目線」

大人と子どもでは、目線、歩幅、体格など、さまざまな違いがあり、大人が危ないと思う場所と子どもが危ないと思う場所が同じであるとは限りません。大人と子ども両方の目線が入ったマップづくりを進めましょう。



作成したマップを活用しよう

展示会，コンテストなどを開催して，作成したマップを展示したり，マップを清書し，対象となる児童生徒・保護者へ配布するなど，情報の共有を行いましょ。また，マップを参考にし，子どもたちが示してくれた危険な場所について地域の方・行政へ呼びかけ，地域環境の改善に取り組むとよいでしょう。

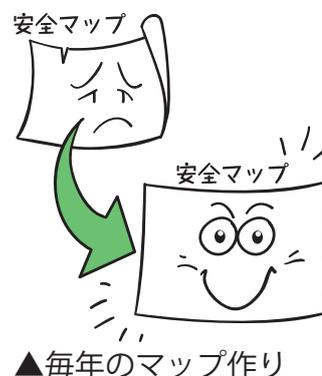
ビデオ教材 (ビデオ→ 地域安全マップ)

※ビデオを見て，安全マップの効果と作成の流れについてまとめてみましょう。



定期的なマップづくり

定期的な地域安全マップづくりを行うことは，「現在の地域環境の情報を共有」し，「子どもの危機回避能力」を高めるという目的において重要です。毎年一定の年齢を対象にマップづくりを行うことで，地域に住むすべての子どもたちの能力を育成することができます。



Column

ニュースを見よう！

日ごろから事故や事件のニュースを見て，自分に置き換えて想像したり，どういう場所にどんな危険があるかを予測しておくことはとても大切です。

天気予報で「夕方雨が降るでしょう」と聞いたらお天気でも傘を持っていくように，事故や事件も予知できれば，防ぐことができます。事故や事件の予知能力を高めることが，犯罪を予防したり，何かあったとき落ち着いて行動する力を養ってくれます。

したがって，必要以上に怖がる必要もないし，危ないからずっと家の中にいたほうがよいなんてこともありません。雨の日だって傘や長靴があれば楽しく外出できるように，危険についてもちゃんと心構えや準備をしておけば大丈夫です。